

2020年6月30日

資料9
総合科学技術・イノベーション会議
基本計画専門調査会
(第6回) R2. 7. 1

表記専門調査会において次期科学技術・イノベーション基本計画を検討するにあたり、検討の方向性(素案)についての意見照会に対し、以下のとおり提出しますので、よろしくお願いいたします。

CSTI 議員(非常勤) 松尾 清一
(東海国立大学機構名古屋大学総長)

1. P1、L13: 「第3次産業革命」という文言について、定義を明確にしておく必要がある(WEF シュワブ会長は「第4次産業革命」と命名)。何をもって第3次産業革命とするのか、明確に記載したほうが、国民にとってはわかりやすい。また有識者からも異論が出にくいのではないか。
2. P1、L29~30: 「科学研究インフラの再構築のために公的資金のさらなる投下をもとめる」とあるが、このドラフトにも再三出てくるように、ニューノーマル(ポストコロナ)社会を担う人材育成は喫緊の課題であり、それが科学研究インフラの重要な要素であるので、「科学研究及び人材育成のインフラの再構築のために・・・」とすべきである。
3. P6、L16~18: 「初等中等教育の段階から AI リテラシーを身に付け・・・そして、多様なキャリアパスを可能とする人材流動可能なシステムを構築・・・」とあるが、AI は急速かつ広範にかつ多様に進化してゆくものと考えれば、初等中等教育の段階から AI リテラシーを身に付けることは基礎基盤部分であり、高等教育においてそれをどう多様で深いものに拡張し、個々人の AI リテラシーをより時代のニーズのあったものにするか、という視点が重要である。その観点から、ここは、「高等教育における人材育成において、生涯にわたる AI リテラシーの多様化と深化のための教育が必要である。」という文章を加えてはいかがか。
4. P8、L2~3: 「初等中等からの STEAM 教育は言うまでもなく」を「初等中等からの AI リテラシーの醸成や STEAM 教育は言うまでもなく」に訂正。全編において、AI リテラシー醸成を一貫した記述にするため。また、上記、3. で指摘した、「高等教育における人材育成において、生涯にわたる AI リテラシーの拡大と深化のための教育が必要である。」という視点を高等教育に入れ込んでおくことは重要である。
5. P16、L1、及び関連箇所 P19、L6~9: ここは、是非、この間の CSTI の議論の中でまとめられた「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージで示された、人材、資金、環境の観点からの改革」という文言を入れて頂きたい。

6. P17、L21-22: 「大学等における先端的な研究や…研究施設の計画的・重点的整備を進める」とあるが、大学の施設建物をイノベーション創出に活用するには、世界最高水準の研究インフラ整備が不可欠であることは論をまたない。また、今後の国立大学等の建物施設の整備においては、単に老朽化したものを改修、維持するだけではなく、地域や産業界などの様々なステークホルダーとの連携による創造活動が展開できる「イノベーション・commons (共創拠点)」として蘇らせることは極めて重要であり、国立大学等の施設への計画的・重点的な投資が重要である。このような視点からの記述の追加が必要と思われる。
7. P18、L 34~P19、L14: この部分の記述は、「3. 新たな社会システムに求められる人材育成と資金循環」(P18、L15) という課題を明確にするために、「(1) 新たな社会で活躍する人材育成」(同、L22) を担う3つの要素のうちの一つとして、「②高等教育」が記載されている。上記の3. 及び4. の観点から、AIリテラシーというキーワードをしっかりと明記しておくことが重要である。AIリテラシーの醸成とSTEAM教育は車の両輪である。その上で、初等中等教育においてはその基盤となる教育の役割が、また、高等教育においてはその基盤の上に多様化させ、一層深化させ、そして変化に対応する資質を育てる役割が必要であり、それらを基にしたスタートアップ育成にも時系列的につながり発展するという継続性と発展性の文脈を明確にしておく必要があるのではないかと。
8. P19、L16~L36: 新型コロナウイルス感染症の蔓延で人類社会はあらゆる面で大打撃を受けたが、そのインパクトはニューノーマルに向けた社会変革を強力に後押しする形で作用している。本ドラフトではそれが研究に与えるインパクトを詳細に記述しているが、教育における記述はそれに比べるとまだ一般的なものとどまっている。国際的な頭脳循環を図るにしても、人生100年時代のリカレント教育(学びなおし)を進めるにしても、そしてまた多様な領域を統合したリベラルアーツ教育を進めるにしても、わが国の教育社会インフラは極めて貧弱である。単にパソコンとWiFi環境を整備して従来型の教育をオンラインに置き換えれば事足りるものではなく、リアルとオンライン、サイバーとフィジカルの融合による質の高い新しい教育環境の整備と普及が必要ではないか。このような環境整備への公的投資こそ、未来の人類社会を担う人材の育成につながるのではないかと。
- (以上)